

6月1日は 人権擁護委員の日です

人権は、私たちが日常生活を送るうえで、欠くことのできない大切なものです。

今年、国際連合（国連）の第三回総会で「世界人権宣言」が採択されてから67年目になります。

人権は、平和な社会が確立され、一人ひとりの自由が保障された環境ではぐくまれ、人々の心に芽生えるものです。

市では、人権擁護委員の日を記念し、6月1日（月）の午前中、市民の皆さんに人権の大切さをお知らせするため、市役所第二庁舎入口付近で啓発活動を行います。

この機会に、あなたも人権の重要性を考えてみてはいかがでしょうか。

【人権・身の上特設相談】

法務大臣から委嘱を受けた人権擁護委員（弁護士、教育関係者など）が、人権に関する無料特別相談を実施します。

家庭内のトラブル、夫婦間の問題、相続などに関する悩みごとなど、お気軽にご相談ください。秘密は堅く守られます。

と き 6月1日（月）午前9時～正午

※ 相談時間は1人おのおの1時間

と ころ 市民相談室（市役所第二庁舎1階）

定 員 3人（申込順）

申 込 5月18日～29日に、電話または直接、広報秘書課広報係（市役所第二庁舎1階 ☎042-387-9818）へ。

中学生人権 作文コンテスト 受賞作品

平成26年度に行われた全国中学生人権作文コンテスト東京都大会で、市内の生徒が作文委員会賞を受賞しました。その作文をご紹介します。（敬称略。学年は受賞当時のもので、原則原文のとおりに掲載しています）

愛のサイクル

第一中学校3年生
豊田 凛

自由に自分の考えを述べる
こと、しっかりと教育を受ける
こと、病気になるたらちや
んと治療してもらうこと。
「人権」という言葉を聞いて、
私がすぐに思いつくのはこの
ようなものですが、世界には
そんなふうには生きていけない
人が数多くいるのだというこ
とを、私はこの夏休みに具体
的に知りました。

夏休みに入る直前の一週
間、私の通う中学校ではユニ
セフ募金が行われました。そ
の翌週の朝礼で、生徒会から
募金で集まった金額の報告
と、ちょっとしたスライドシ
ョーがありました。全校生徒
によって集められた合計金額
は五万円以上でした。そのお
金は物資に換えられ、現地に
届けられます。生徒会長曰
く、それは「愛のサイクル」

なのだと言います。困ってい
る人が誰かに優しくされて、
心に余裕ができて、その分誰
かに優しくなれる。その優し
さが巡り巡って、初めに優し
さを与えた人の元に返ってき
ます。これが「愛のサイク
ル」の原理です。

私はこれまで、片手で数え
られる程度でしか募金活動に
参加したことがありませんで
した。今回のユニセフ募金で
も、一切お金を投じませんで
した。今まで、名前も知らな
い誰かのために募金すること
は損だと思っていました。だ
けど、今回の生徒会長の話を
聞いて、今後は誰かの幸せに
貢献しようと思いました。他
の誰かを幸せにすることが結
局は、自分自身が幸せになる
近道なのかも知れません。

私は夏休み中に、国際保健
協力市民の会が主催する、カ
ンボジアスタディツアー報告
会に参加しました。実際にカ
ンボジアでボランティア活動
をしている方の話を聞いた

り、カンボジアに届けるぬい
ぐるみを製作するというのが
主な内容でした。
カンボジアでは七十年代の
内乱の影響もあり、未だに貧
困と劣悪な環境の中で多くの
人が生活しています。特に幼
い子供たちの健康や命が脅か
されることも多いのです。カ
ンボジアには医師が三千人ほ
どしかいません。割合にする
と、一万人に約二・七人しか
いません。一方、日本には一
万人に約二十・七人います。
又、カンボジアには救急車が
ないため、病気になる場合
には、病院に連れて行くかど
うかを近所の人たちと相談し
て決めます。道路事情も悪
く、雨が降った翌日には車が
走れなくなり、病院に連れて
いくこともできなくなりま

行動が、それとも 見て見ぬふりか

南中学校3年生
吉村 瑞季

私はいつも思う。「人間
は、なんて無力なんだ」と。
私は、街中を歩いている
時、目の不自由な人や、言語
に障害を持っている人とすれ
違い、「あの人が可哀相。」とし
て、「自分じゃなくて良かった。」
と思う。これは私の正直
な気持ちだ。否定することも
できない。この様に思ってい
る人は、私以外にもたくさん
いると思う。

私は幼い頃、こんな経験を
したので覚えている。私は何
人かの友達、そして何人かの
保護者で公園にいた。その
時、すぐ隣のベンチにいた男
性に、私の目は釘付けになっ
ていた。その男性は、面白い
指の動きをしていて、ずっと
同じことを、一人で繰り返し
ていた。すると、ある一人の

す。重い病気の場合は、カン
ボジア内では治療できない
ため、タイなどの近隣国の病
院に行かなくてはなりません。
しかし金銭問題や交通事
情によって、それはあまり現
実的ではないケースが多いで
す。そのため二歳になっても
四千グラムにも満たない栄養
失調児が多いのも現実です。
こうした現実から、色々な形
での支援が必要とされていま
す。支援といっても、ただ物
やお金を直接届けるのではな
く、現地の人々が自分で知識
を蓄え、自分たちの力で必要
な物が作り出せるような、自
立のための支援が必要とされ
ています。

私は生徒会長が言った「愛
のサイクル」には二つの形が
あると思います。一つ目は生
保護者が私に言った。
「そんなに見ていたら、あの
人が可哀相じゃないの。こっ
ちに来なさい。」

その時、まだ四、五歳だった
私は、その意味がよく理解で
きなかった。ただ、言われる
がまま、私はその男性から目
をそらした。

私はその時、あの男性を
「可哀相。」などとは全く思っ
ていなかった。ただ、指の動
きが面白くて、見つめてしま
っただけだ。その時、耳にし
た「可哀相。」という言葉は、
今でも私の心に深く残ってい
る。

少し大きくなった小学生。
私はただ、大人への絶望感を
強く抱いていた。大人になっ
たら、「可哀相。」という言葉
で全てを片づけなければなら
ないのか。しっかりと正面から
ぶつかり、向き合う大人はい
ないのか。逃げるだけで、他
に何もできないのか。

徒会長の言うように、一人一
人の優しさである愛が広が
り、世界が良くなるというこ
と。もう一つは、誰かから教
えられた、生きる上で必要な
知識や技術を他の人にも伝え
ていくという、自立のサイク
ルがあるということに、この
報告会に行きつづきまし
た。その時に作ったぬいぐる
みは、現地の子供たちが健康
診断を受ける際、待ち時間に
泣いている子をあやすための
道具として用いられます。私
たちが作ったぬいぐるみは
「物」だけでなく、おもちゃ屋で
百円のおもちゃを百個買ひ与
えるのとは全く意味が違うと
思います。私はぬいぐるみを
作っている時に、カンボジア
で泣いている赤ちゃんの顔を
思い浮かべながら針を運んで

やら部活やらで、物事をゆっ
くり考える時間もなくなっ
た。そんなある日、私は駅
で、言語障害のある女性と遭
遇した。その女性は、よく意
味が分からない単語を一人
ずつと繰り返して、しまいに
は、電車の中で大声で歌い出
してしまっただけだ。その時私
は、「可哀相。」という文字が
一番大きく、ハッキリと浮か
んだのである。私は、自分自
身、とても驚いていた。数年
前まで、障害のある人を見
て、「可哀相。」などと思っ
たことはなかった。しかし、あ
の時確かに、私の頭には「可
哀相。」という言葉がしっかりと
刻まれていた。そして、その
女性から目をそらし、たい
つもの十倍以上に長く感じ
る電車に揺られていた。周り
の大人達も知らんぷり。まる
でも何もしないのか。どう
いうに、本を読み、ケータイを
いじり、音楽を聴いて。

私はその時、なぜかイライ
ラしていた。自分でも、その
時の心情はよく分からない。
でも私は、一歩前進したの
かもしれない。以前の私は、
自分の周りに障害を持った人
がいたら、必ず何か行動しな
ければいけないと思ってい
た。それは違っただけだ。例え
ば、あの時の私のように、電
車の中で大声で歌っている人
に会ったとしても、人はどう
することもできない。いや、
どうもしない方がいいのかも
しれない。そこで、「静かに
して下さい。」などと言うの
も、それはそれでおかしい。
その人が気持ち良く歌ってい
るのなら、それは見て見ぬふ
りをするのが、一番良いのか
もしれない。

私はこれまでの経験で、私
なりの考えがまとまった。そ
れは、人を「差別」するので
はなく、「区別」する、とい
うことだ。

街中を歩いている人は、誰も
が障害を持った人に、一度は

支援の話を聞きながら、日本
も不安定な状況にあるとい
うことに気づかされた日でもあ
りました。

私は今後、自分自身が自立
するために勉強にはげみ、広
い視野と価値観を持って、自
分を高めていきたいです。

会ったことがあるだろう。そ
の時に、「区別」をするのだ。
その人のために、何か行動し
なければいけないのか、それ
ともそのまましておくの
か、と。例えば、目の不自由
な人や、車椅子に乗った人が
困っていたら、それは行動し
なければいけない。しかし、
電車の中で大声で歌っていた
り、一人で話している人がい
ても、私達が何かする必要は
ない。私は、自分なりにそう
解釈することにした。

私は、これから学んでいき
たい。障害を持っている人に
とって、私達の行動はどう受
けとられているのか。どうす
れば助けられるのか。

障害を持っている人の気持
ちは、障害を持っていない人
にしか分からない。でも私は、
諦めず考え続けたい。そし
て、今すべきことは何かを、
正確に判断できる大人にな
りたいと心から思う。

中学生一年生になった。勉強

中学生一年生になった。勉強

中学生一年生になった。勉強



人KENあゆみちゃん 人KENまもる君
人権イメージキャラクター